

平成22年度 全国学力・学習状況調査の分析

平成 2 2 年度

全国学力・学習状況調査の結果

～ 石狩市における調査結果の概要～

石狩市教育委員会

この調査結果は、国及び北海道が公表した、「平成 2 2 年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年

3. 調査の方式

平成 1 9 年度～ 2 1 年度は、すべての小中学校を対象として実施してきましたが、今年度から、抽出調査（全国で約 3 0 %）及び希望利用調査になりました。

以下において、「全国」「全道」と記載しているデータについては、抽出調査結果です。（北海道においては、札幌市を含まない抽出調査結果にあわせて希望利用調査結果を合算したデータを作成しており、各教科の正答率の状況の欄に参考として掲載しました。）

「石狩市」については、本市の抽出調査結果と希望利用調査結果の合算データとなっています。

問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」
(<http://www.nier.go.jp/10chousa/10chousa.htm>)

4. 調査実施日

平成 2 2 年 4 月 2 0 日（火）

5. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 1 3 校（市内全校） 5 6 1 名

中学校 8 校（ 々 ） 5 1 8 名

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校国語】

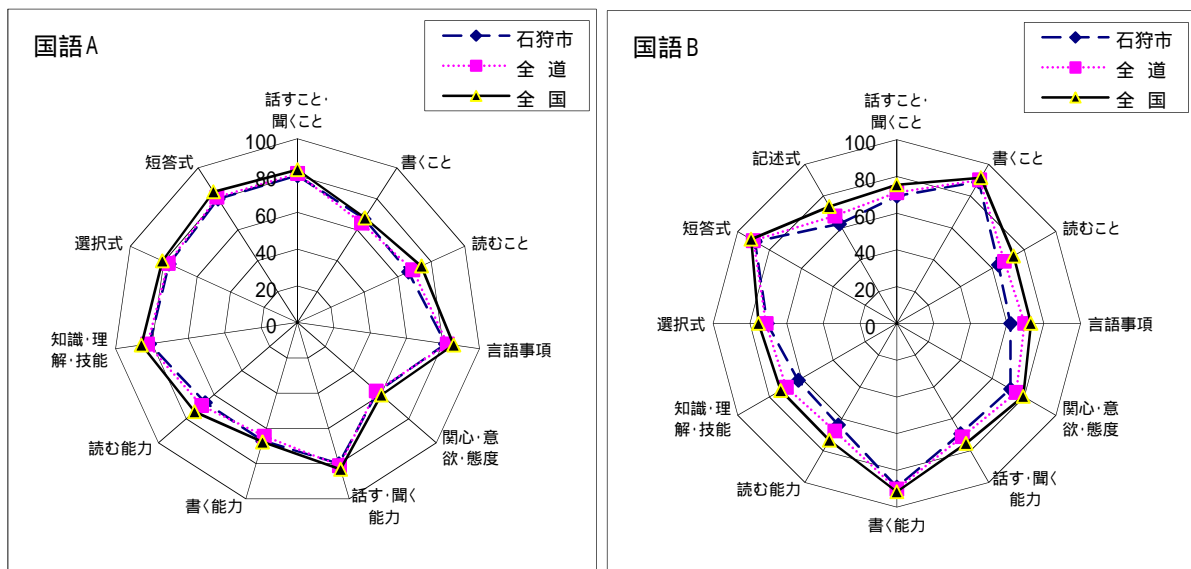
正答率の状況

		国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全国	抽出	12.5 / 15問	83.3 ()	7.8 / 10問	77.8 ()
全道	抽出	12.0 / 15問	79.9 (-3.4)	7.4 / 10問	73.5 (-4.3)
	合算(参考)	11.8 / 15問	79.0 (-4.3)	7.1 / 10問	71.2 (-6.6)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石狩市						

ほぼ同程度とは - 3.0 ~ + 3.0 ポイントの範囲

領域・観点別正答率比較グラフ



国語科の概要

昨年度に比べて、「書くこと」がやや上昇
漢字の読み書きなどの言語事項に課題
内容を読み取り、あらすじや感想を要約することに課題

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題です。短答・選択の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では全体構成を工夫して話す。「書くこと」ではメモを基にしたり、文の構成を考えて書く。「読むこと」では説明文や文学的な文章を適切に読む。「言語事項」では漢字の読み書き、国語辞典の活用、共通語と方言の違いなどに関する内容になっています。問題数は15問です。

- ・「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域については、一部にやや課題が見られますが、ほぼ全国と同程度理解しています。
- ・「読むこと」では、物語の展開に即して人物相互の関係や役割を押さえながら読むことなどにやや課題が見られます。

	国語 A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3 内容読取	登場人物の関係を捉えて書く	57.0%	59.6%	65.0%

- ・「言語事項」では、既習の漢字の正しい読み書き、共通語と方言の違い(特質)を押さえそれぞれの使い分けを区別することなどに課題が見られます。

	国語 A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1ー 漢字を読む	1 「慣れる」(ナれる)	87.7%	91.8%	96.2%
	1二 漢字を書く	1 「ヒサしぶり」(久しぶり)	70.6%	75.3%	80.1%
		3 「ヘンカ」(変化)	80.9%	86.9%	90.3%
	8 違いの選択	共通語と方言の使われ方	71.3%	74.9%	81.0%

指導の改善にあたって

- ・説明文や物語などの読書活動の充実を図り、読書への興味・関心を高めるとともに、語彙力(ごいりょく)をはじめ要旨や登場人物の考え・行動など文章を読み取る力の向上に努めます。
- ・漢字の読み書きでは、繰り返して学習したり、習得した漢字を短文づくりや日記などの文や文章に適切に活用させるなどの指導を通し、基礎的な学力の向上に努めます。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では資料を効果的に提示して話したり、聞き手を引き付けるように話す。「書くこと」では2つの意見の共通点や相違点を書く。「読むこと」では登場人物の行動や場面の移り変わりの読み取りや理由をまとめて書く。「言語事項」では物語のあらすじを書くことなどの内容になっています。問題数は10問です。

- ・「書くこと」については、ほぼ全国と同程度理解しています。
- ・「話すこと・聞くこと」では、話し手が聞き手に問いかける聞き方（工夫）についてのとらえに課題が見られます。

(例)	国語 B		設 問	石狩市	全 道	全 国
	3 二	理由を書く	正答率	60.1%	66.5%	73.0%
	自己考察		無解答率	17.6%	15.9%	11.2%

- ・「読むこと」では、文字数が指定されるなどの条件の下、記述による解答が求められる問題への対応に課題が見られます。

(例)	国語 B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
	2 一	1	物語を読み、40～60字 であらすじを書く	61.9%	69.5%	73.0%
	2 二		物語を読み、60～80字 で自分の思いや考えを 書く	66.0%	75.2%	82.3%

- ・記述式の問題では全国に比べて正答率が低く、無解答率が高くなっていることにもやや課題が見られます。[上段の問題（例）3 二を参照]

指導の改善にあたって)

- ・登場人物の行動や場面の移り変わりに注意して作品を読み取り、決められた字数であらすじや自分の考えを書くこと、文章の構成や展開などに着目させながら理由を明確にして書いたり、注目点や強調点をしっかり示して発表することができるよう指導に努めます。
- ・授業や自学自習の場で有効にノートが活用が図られ、学びの連続を一層高めるために、自分の考えをもって、目的に応じてメモをしたり、必要事項を整理して書くなどのノート指導の充実を図ります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答（好きです、どちらかといえば好きです）は、全国の62.1%に対して石狩市は58.1%でやや低い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の91.6%に対して石狩市は90.6%でほぼ同じ結果が出ています。
- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国の82.3%に対して石狩市は80.1%と若干下回っていますが同程度です。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の73.0%に対して石狩市は72.7%とほぼ同じ結果が出ています。
- ・国語の授業の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」の設問では、肯定的な回答は全国と同等ですが、「文章を読むとき段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の問いでは、全国よりやや低い回答になっています。
- ・解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答は、A問題・B問題ともに石狩市は全国をやや下回っています。なお、A・Bとも無解答率では、石狩市は全国よりやや高い傾向にあります。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校算数】

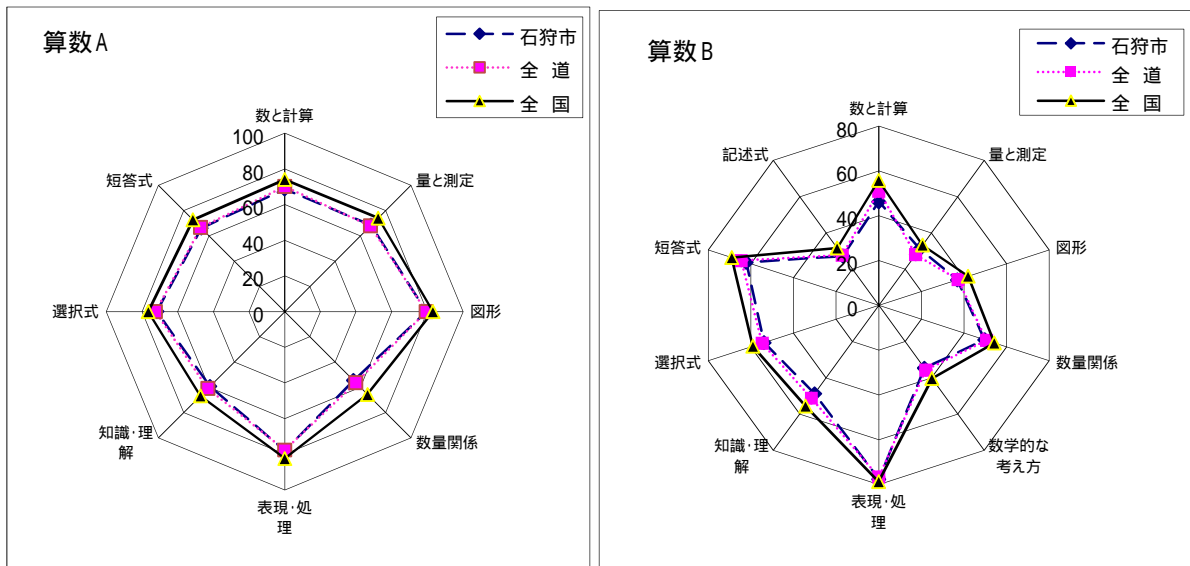
正答率の状況

		算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全国	抽出	14.1 / 19問	74.2 ()	5.9 / 12問	49.3 ()
全道	抽出	13.1 / 19問	68.8 (-5.4)	5.4 / 12問	45.1 (-4.2)
	合算(参考)	12.8 / 19問	67.2 (-7.0)	5.3 / 12問	43.8 (-5.5)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石狩市						

ほぼ同程度とは - 3.0 ~ + 3.0 ポイントの範囲

領域・観点別正答率比較グラフ



算数科の概要

整数の四則計算や平面図形の定義や性質については、ほぼ定着
 小数や分数の計算、除法の意味を理解して計算することに課題
 計算の順序の決まりを理解し計算することに課題
 公式を理解し、計算して面積を求めることに課題

算数 A（主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題です。選択・短答の解答形式で構成されています。領域別では、「数と計算」では四則計算・除法（商が1より小さいときに小数や分数で表記）や分数（等分部分を分数で表現）の意味。「量と測定」では円や台形の求積・三角形の補角の大きさ。「図形」では三角形や四角形の定義や性質・立方体の展開図。「数量関係」では混合計算・割合・グラフの読み取りに関する内容になっています。問題数は19問です。

- ・「図形」については、一部にやや課題が見られますが、ほぼ全国と同程度理解しています。
- ・「数と計算」では、四則計算はほぼ全国と同程度理解していますが、「整数 - 小数」の計算や「整数 ÷ 整数」で商が1より小さくなる除法の意味の理解や等分してできる部分を表す分数の理解に課題が見られます。

算数 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1 小数の減法	4 8 - 0.5 を計算する	73.4%	75.5%	83.2%
	2 除法の意味	1 8 mの重さが4 kgの棒の1 mの重さを求める式と答えを書く	43.3%	45.2%	53.8%
	3 分数の意味の理解		56.1%	64.4%	68.6%

- ・「量と測定」では、台形の面積の求め方の理解が不十分なために、三角形の求積方法と混同しているなどの課題が見られます。

算数 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
例)	5 台形の求積	2 上底3 cm、下底7 cm、高さ4 cmの台形の面積を求める式と答えを書く	56.0%	56.4%	70.1%

- ・「数量関係」では、混合計算や割合に関する問題について課題が見られます。

算数 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
例)	1 混合計算	6 50 + 150 × 2 を解く	54.2%	54.0%	65.9%
	9 割合の意味	1 40 m ² は50 m ² のどれだけの割合かを求める	42.2%	48.4%	57.4%

指導の改善にあたって

- ・ 平面図形の面積を求めるために公式を正しく活用させなければなりません。台形では図形の特徴に注目させ、「上底 + 下底」や「÷ 2」の意味が充分理解されるよう指導に努めます。
- ・ 混合計算では計算の決まり（カッコや乗除が先）に従って順序正しく計算すること、小数では正しい位取りによる計算、分数の意味の理解については分母が違って大きさが等しい場合があることを図を使うなどして具体的にとらえさせる指導に努めます。
- ・ 除法の意味の理解や割合に関する問題については、「比較量」と「基準量」を的確にとらえて計算するために、問題文を読み取る力を高めるなど国語科などと関連付けた日常の指導の充実に努めます。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力やさまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する力をみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。「数と計算」ではおつりが整数になることへの判断。「量と測定」では三角形の面積の説明。「図形」では示された条件を基にした図形の説明や選択。「数量関係」ではグラフや表の読み取りや割合の利用などの内容になっています。問題数は12問です。

- ・「量や測定」、「図形」については、一部にやや課題が見られますが、ほぼ全国と同程度理解しています。
- ・「数と計算」では、示された式を解釈し、正しく判断することに課題が見られます。

算数B	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
例) 1 金額の判断	1 定価が整数になるおつりの金額を選択する	46.3%	51.0%	55.8%

- ・「数量関係」では、計算の決まりを理解し、おつりを正しく求められるように示された式にカッコを書き加えて式に修正することに課題が見られます。

算数B	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
例) 1 式の修正	2 はじめの式に()を加え、正しい式に修正する	30.5%	34.5%	42.2%

- ・解答が記述式の設定では、全国に比べて無解答率が高くなっていることにも課題が見られます。

算数B	設問	正答率	石狩市	全道	全国
(例) 4 図形の説明	示された説明を解釈し、別の図形に適用して説明する	正答率	31.2%	28.0%	33.3%
		無解答率	32.1%	29.7%	22.0%

指導の改善にあたって

- ・与えられた条件を基に問題づくりをしたり、つくった問題を実際に解く過程において問題の吟味や修正に取り組みさせる活動を取り入れるなど、数学的な考え方を高めていく指導に一層力を入れていきます。
- ・算数Aと同様、式をたてて正しく計算したり説明することができるよう、問われていることを問題文から読み取るために、他教科との関連を図り読解力の向上に努める取り組みをさらに充実させていきます。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の63.8%に対して、石狩市は、66.1%と若干上回っていますが同程度です。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の92.1%に対して、石狩市は、90.4%と若干下回りますが同程度です。
- ・「算数の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国の78.0%に対して、石狩市は、75.9%と若干下回りますが同程度です。
- ・「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」の設問では全国と同等の結果ですが、「授業で学習したことを普段の生活の中で、活用できないか考えますか」では、全国をやや上回っています。
- ・解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答は、A問題・B問題ともに石狩市は全国をやや下回っています。なお、A・Bとも無解答率では、石狩市は全国よりやや高い傾向にあります。

平成22年度 全国学力学習状況調査の結果分析【中学校国語】

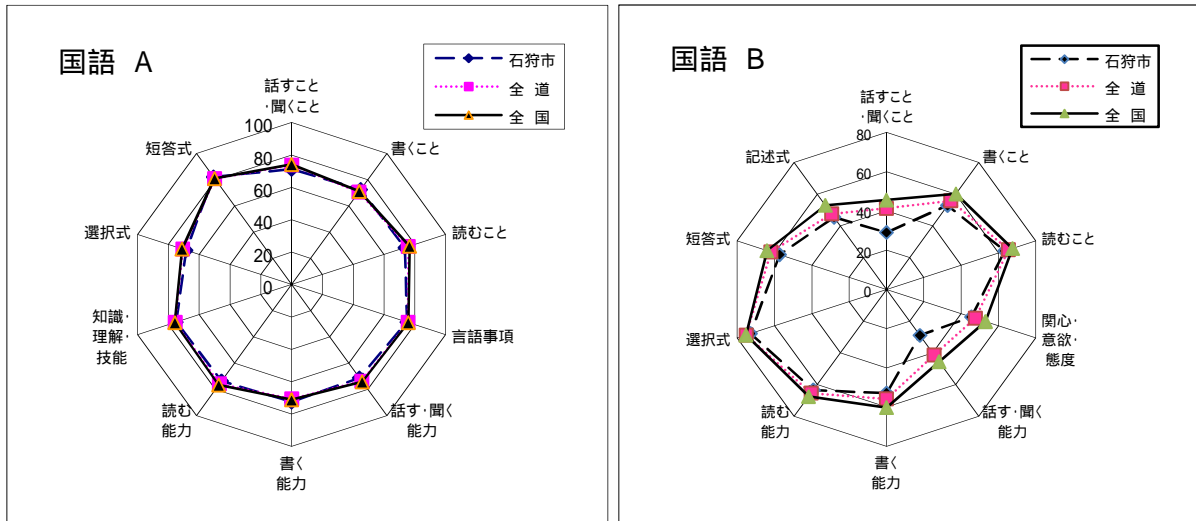
正答率の状況

		国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全国	抽出	26.3 / 35問	75.1 ()	6.5 / 10問	65.3 ()
全道	抽出	26.2 / 35問	74.7 (-0.4)	6.3 / 10問	62.9 (-2.4)
	合算(参考)	26.0 / 35問	74.2 (-0.9)	6.1 / 10問	61.2 (-4.1)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石狩市						

ほぼ同程度とは-3.0~+3.0ポイントの範囲

領域・観点別正答率比較グラフ



国語科の概要

基礎的・基本的な知識・理解は、年々着実に向上
 言葉についての基本的な知識は、ほぼ定着
 筋道を立てて考えたり、基礎的知識を応用して活用することに課題
 言葉の意味を理解し、活用することに課題

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する定着度をみる問題で構成されています。「話すこと・聞くこと」では説得力のある話し方や聞き取り方、目的に沿った適切な質問の仕方。「書くこと」では読みやすく分かりやすい文章や内容の整理、相手に応じた表現の工夫。「読むこと」では文章や語句の意味や内容を捉える。「言語事項」では漢字の読み書き、適切な使い方等に関する出題内容になっています。問題数は35問です。

- 基本的な漢字の「読み・書き」についてはほぼ全国と同程度、または、やや上回っています。

国語 A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例) 10一 漢字を書く	1 「ソウダン」(相談)	76.0%	73.5%	76.0%
	2 「コウシキ」(公式)	76.4%	74.6%	73.6%
	3 「スガタ」(姿)	86.5%	83.9%	82.1%
10二 漢字を読む	1 「冒頭」(ボウトウ)	91.9%	92.5%	92.7%
	2 「衝撃」(ショウゲキ)	97.5%	95.1%	94.8%
	3 「導く」(ミチビク)	97.9%	96.6%	96.3%

- 語句の意味を理解し適切に使うことは、一部にやや課題が見られるものの、ほぼ全国と同程度理解しています。

国語 A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例) 10三 適切な語・ 語句を選択 する	ア 過程を調べる	83.0%	85.2%	84.2%
	イ 会議で決を採る	35.0%	40.6%	43.2%
	ウ ひとえに母のおかげです	61.1%	64.5%	63.5%
	エ 申しておりました	51.1%	52.0%	52.8%
	オ ほうっておけない性分	50.9%	51.2%	48.8%

- 論理や文章の展開に即して内容を理解することにやや課題が見られます。

国語 A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例) 8一 論理の展開と 内容理解	「鳥とは違う」カモノ ハシの特徴を選択	49.9%	54.2%	56.6%
8二 文章の展開と 内容理解	「ひどい文章」の説明 で適切なものを選択	67.3%	73.7%	74.5%

指導の改善にあたって

- 接続詞や指示語などに注意して話の筋道を的確に捉え、言葉の使い方を正確に理解することができるよう、読書などの活動を通してさらに指導に努めます。
- 目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くよう、指導に努めます。
- 日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの大切さについて、さらに指導に努めます。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用(応用)することができるかどうかをみる問題で構成されています。「読むこと」を中心に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」の各領域・事項が重複し、応用・発展した出題になっています。問題数は10問です。

- 新聞に関する設問で、「表現を捉える」「内容をもとに自分の考えを書く」ことは全国平均をやや上回る結果です。「資料提示の工夫と具体的説明」及び「文章内容の説明」には課題が見られます。

(例)	国語 B	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1一	情報読取	新聞記事を読んで、施設の開設年月を読み取る	65.4%	72.4%	74.7%
1二	記事表現	記事とコラムを比較する	49.9%	49.9%	48.9%
1三	自己考察	記事内容から感想を書く	56.7%	43.1%	51.6%
2三	工夫説明	資料の修正方法とその理由を書く	29.0%	41.3%	45.6%
3三	自己考察	自分の考えを書く	50.9%	58.4%	62.0%

指導の改善にあたって

- 自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って文の内容を組み替えたり、生徒が相互に評価しあうなどの工夫と指導に努めます。
- 発展的な問題で、複数の要素を組み合わせて考えることや筋道を立て考えることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、順序立てて考えたりいろいろな角度からの見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努めていきます。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の57.2%に対して、石狩市は62.1%と、やや高い結果が出ています。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の89.0%に対して、石狩市は86.6%と、若干下回っていますが同程度です。
- 「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全国の69.9%に対して、石狩市は67.3%と、若干下回っていますが同程度です。
- 「読書は好きですか」では、石狩市は「好き」が46.6%で全国より高く、「どちらかといえば」を加えると66.7%で、全国よりやや低い結果が出ています。
- 国語の授業で、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的な回答率は、いずれも全国より数%低い回答となっています。
- 国語科の無解答率は若干高いもののほぼ全国並です。学習状況調査では、国語A・Bの解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の肯定的な回答の合計が全国より数%高い結果が出ています。

平成22年度 全国学力学習状況調査の結果分析【中学校数学】

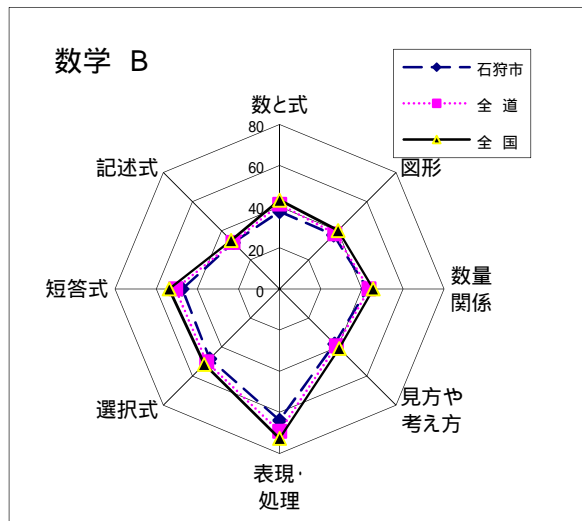
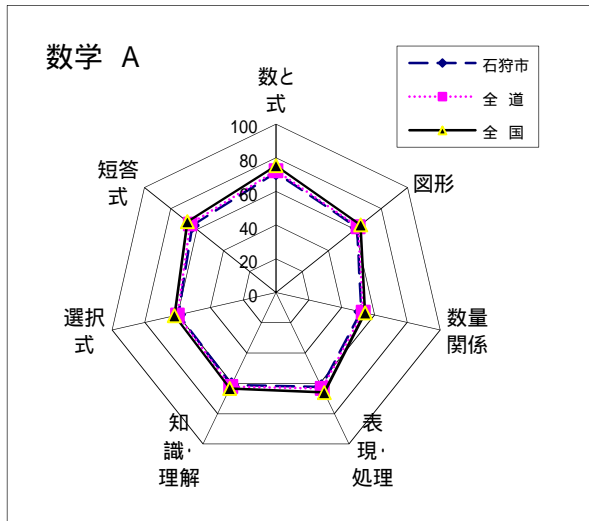
正答率の状況

		数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全国	抽出	23.3 / 36問	64.6 ()	6.1 / 14問	43.3 ()
全道	抽出	22.6 / 36問	62.7 (-1.9)	5.8 / 14問	41.2 (-2.1)
	合算(参考)	21.9 / 36問	60.9 (-3.7)	5.5 / 14問	39.1 (-4.2)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石狩市						

ほぼ同程度とは-3.0~+3.0ポイントの範囲

領域・観点別正答率比較グラフ



数学科の概要

基礎的・基本的な知識・理解は、年々着実に向上定着
基本的な文字式や方程式の計算は、ほぼ定着
文字式や等式の変形、関数等についての理解に課題
基礎的知識の連携や論理的・発展的な考え方に課題

数学 A （主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。「数と式」では分数の計算、正の数・負の数、文字式、代入、方程式。「図形」では対称、平面図形と立体図形、円柱の体積、内角の和、条件と証明等。「数量関係」では比例・反比例、一次関数に関する出題となっています。観点として、数学に関する基礎的な表現・処理及び知識・理解を主とした出題となっています。問題数は36問です。

基本的な文字式や方程式の計算や解き方等は全国平均正答率とほぼ同程度またはやや上回っています。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3(1) 方程式の解	$2x = x + 3$ についての正しい記述を選択する	56.5%	54.1%	55.2%
	7(1) 命題と仮定	「 $AO=BO, CO=DO$ ならば $AC=BD$ である」の仮定をすべて書く	78.6%	76.9%	75.2%
	14(2) 確率の意味	1枚の硬貨を投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	72.0%	65.8%	63.7%

文字式、等式の変形、また、関数について数値の変化、 x と y の関係を式で表すなど、基本事項の理解と習熟にやや課題が見られます。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	2(4) 文字式表現	2桁の自然数を表す式を選ぶ	57.1%	62.3%	65.9%
	2(5) 等式の変形	等式 $2x + y = 5$ を、 y について解く	64.7%	66.8%	72.1%

具体的事象の関係を関数や方程式などで表し計算したり、分数の計算にやや課題が見られます。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3(2) 一次方程式	$(x + 1) / 5 = 2$ を解く	53.2%	54.6%	58.1%

指導の改善にあたって

基礎的事項を定着するためには日常的に繰り返すことが大切です。意識的・計画的に演習するなど、反復学習によって定着に努めていきます。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	5(4) 円柱の体積	円柱の体積を求める式と答えを書く	35.3%	35.8%	39.9%

数 学 B （主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力や、さまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する能力をみる問題です。領域では、「数と式」は情報の選択と処理・筋道を立てたり発展的に考え説明したり、「図形」は与えられた証明から仕組みを考えたり、成り立つ事柄の特徴を数学的表現を用いて説明する。「数量関係」も必要な情報の選択処理、数学的説明など、数学的見方や考え方を主にした応用・発展的出題になっています。問題数は14問です。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることにやや課題が見られます。
- ・ 無解答率が高くなっていることにもやや課題が見られます。

数学B	設 問		石狩市	全 道	全 国
(例) 6(1) 変化する数量 円柱の体積	長さや面積を表すグラフの特徴を説明する	正答率	33.5%	35.4%	38.4%
		無解答率	54.0%	52.5%	48.3%

指導の改善にあたって

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し、再度指導に努めます。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるような取組に努めます。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

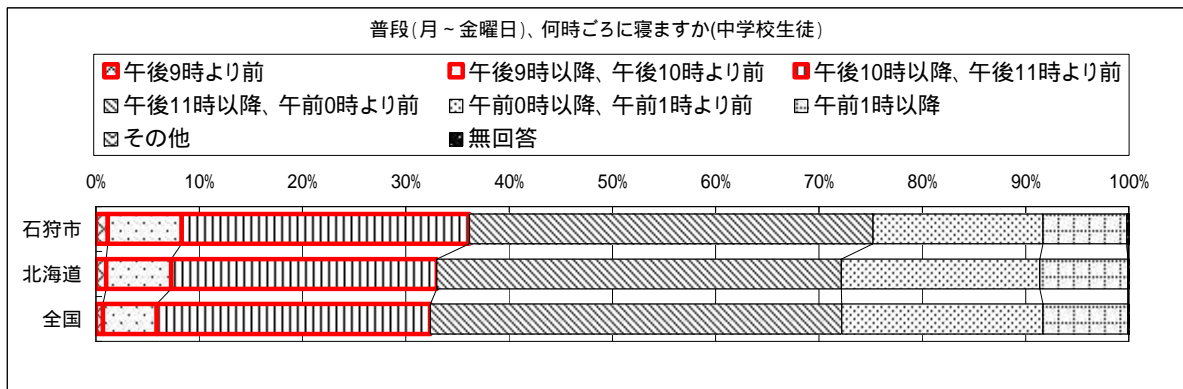
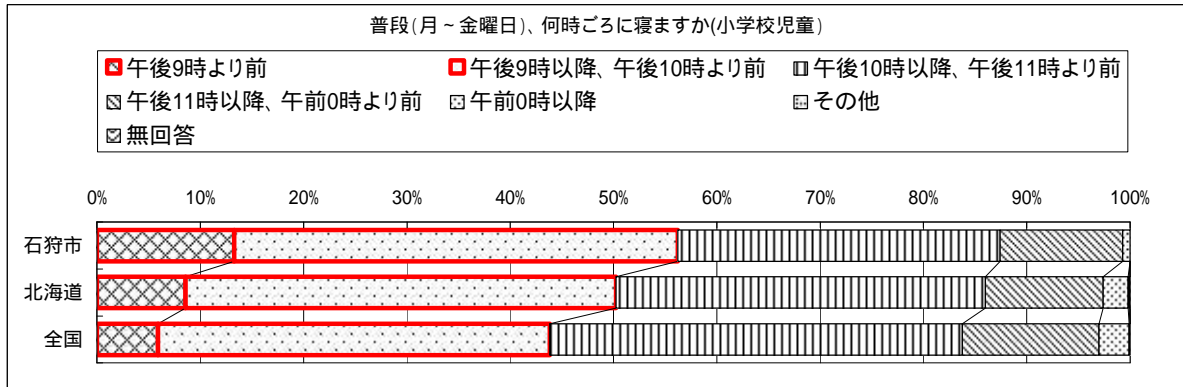
- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の53.3%に対して、石狩市は49.5%と、やや低い結果が出ています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の79.3%に対して、石狩市は71.9%と、低い結果が出ています。
- ・ 「数学の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国の65.7%に対して、石狩市は57.5%と、低い結果が出ています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の92.2%に対して、石狩市は、88.2%で低い結果となっています。
- ・ 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、いずれも全国より数%低い結果が出ています。
- ・ 「最後まで解答を書こうと努力しましたか」に対する肯定的な回答は全国よりも低く、数学A・Bともに無解答率も全体的に高くなっています。しかし、「解答時間は十分でしたか」に対しての肯定的な回答は全国よりも高い数値が出ています。

学習状況調査「児童・生徒質問紙結果」より

基本的な生活習慣や家庭学習習慣について

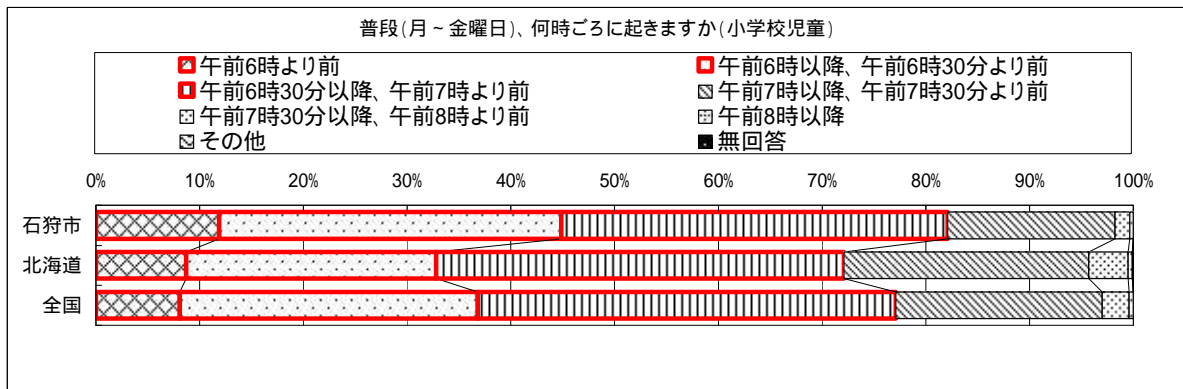
就寝時間は、小学生、中学生ともに全国・全道よりも早め。

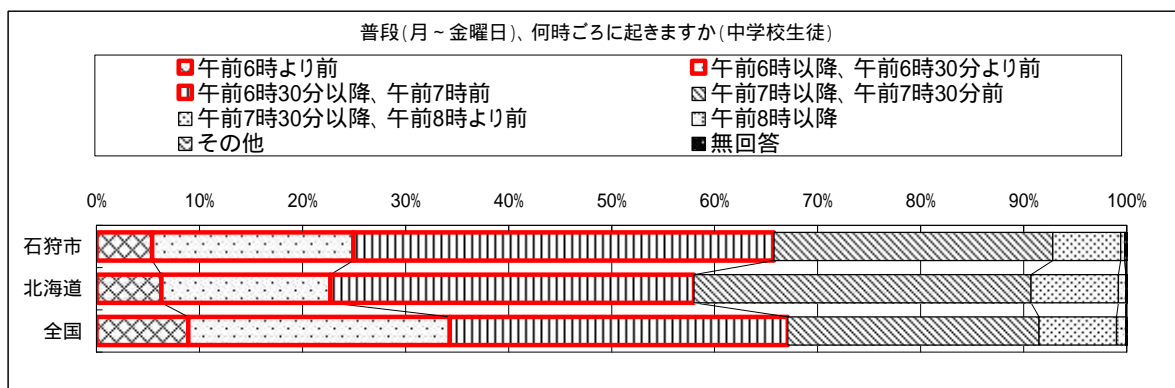
夜10時前に就寝している小学生の割合は56.2%（全国比12.4ポイント高い）、11時前に就寝している中学生の割合は36.3%（全国比3.9ポイント高い）で、いずれも全国・全道より高く、就寝時間が比較的早めの傾向にあります。



起床時間は、全国・全道より小学生はやや早め、中学生は全国とほぼ同様。

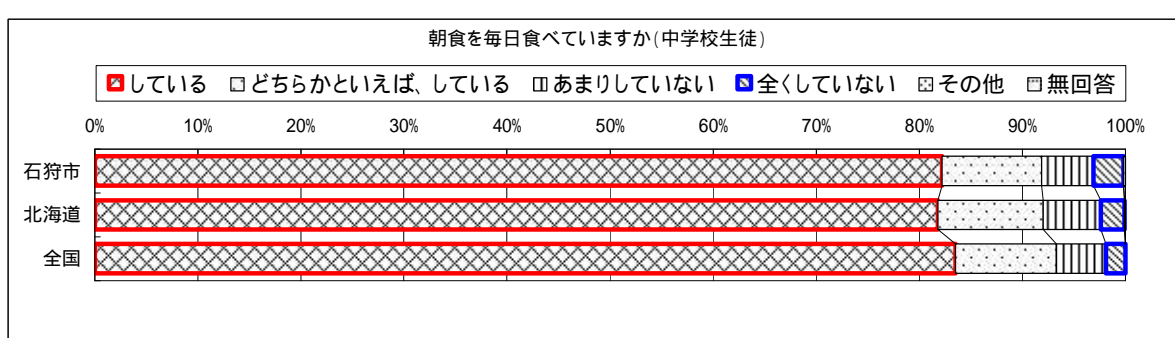
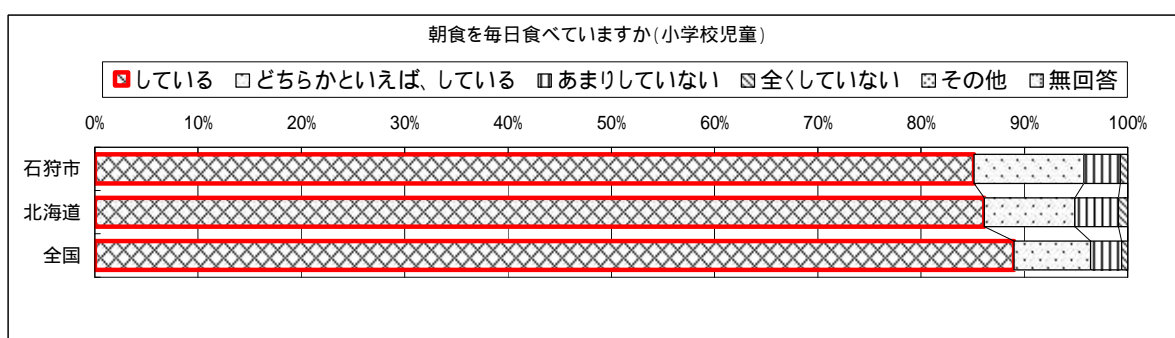
午前7時前に起床している小学生の割合は82.1%（全国比5.0ポイント高い）、中学生は65.7%（全国比1.4ポイント低い）で、全国と比較して、小学生はやや早め、中学生はほぼ同じ傾向にあります。





朝食を毎日食べている割合は、小学生は全国よりもやや低く、中学生は全国とほぼ同様。

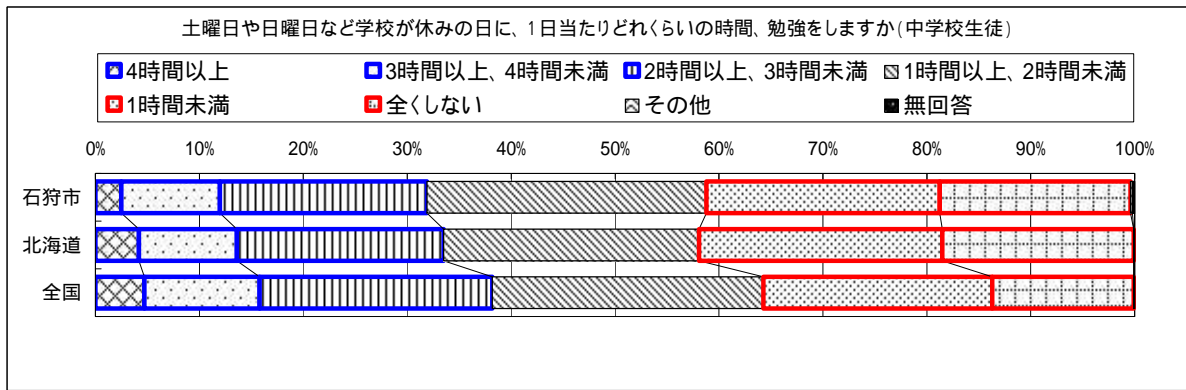
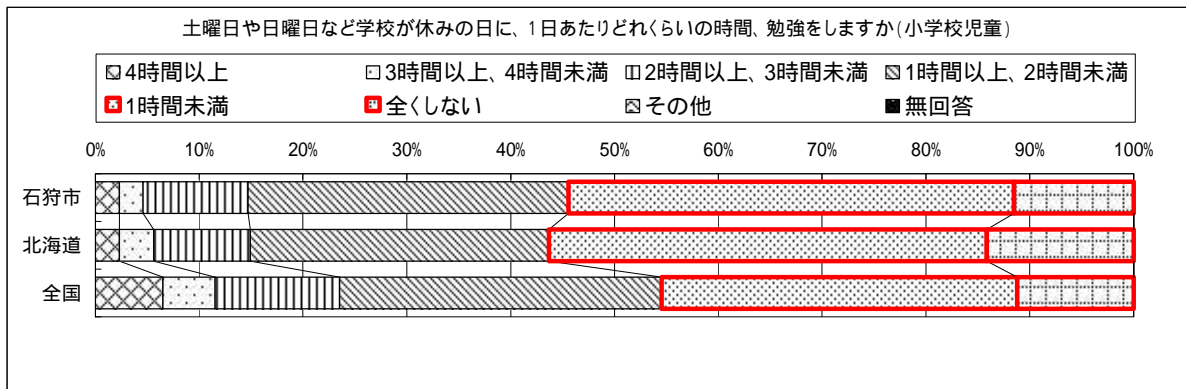
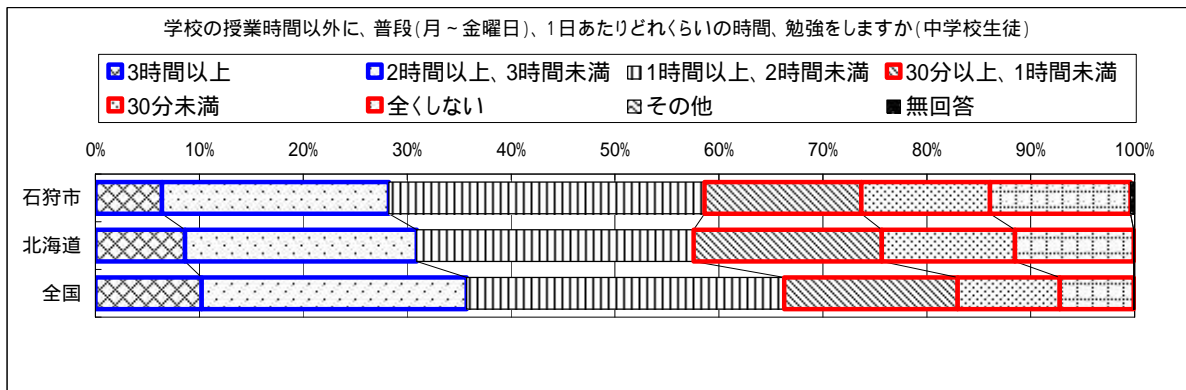
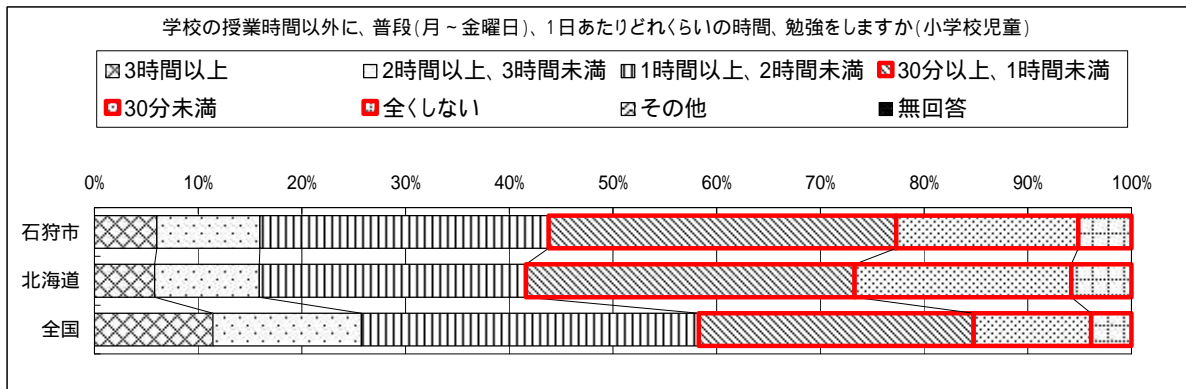
朝食を毎日食べている割合は、小学生では 85.1% (全国比 3.9 ポイント低い)、中学生では 82.2% (全国比 1.3 ポイント低い) で、小学生は全国よりもやや低く、中学生は全国とほぼ同じ状況にあります。ただし、朝食を全く食べない中学生の割合が 2.9% となっています。



家庭学習時間は、全国よりも短い。

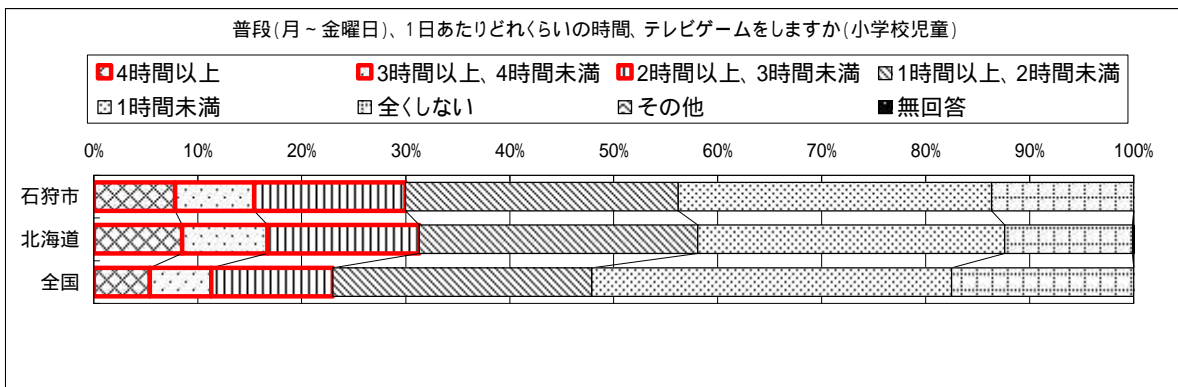
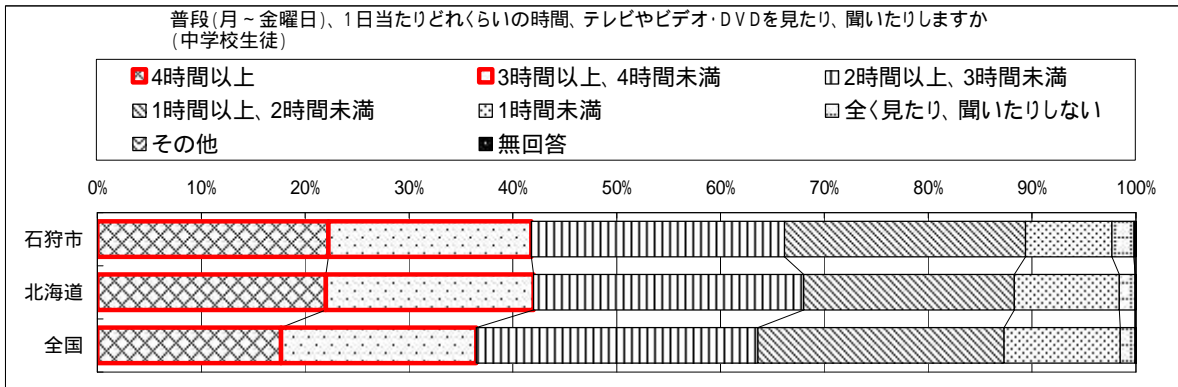
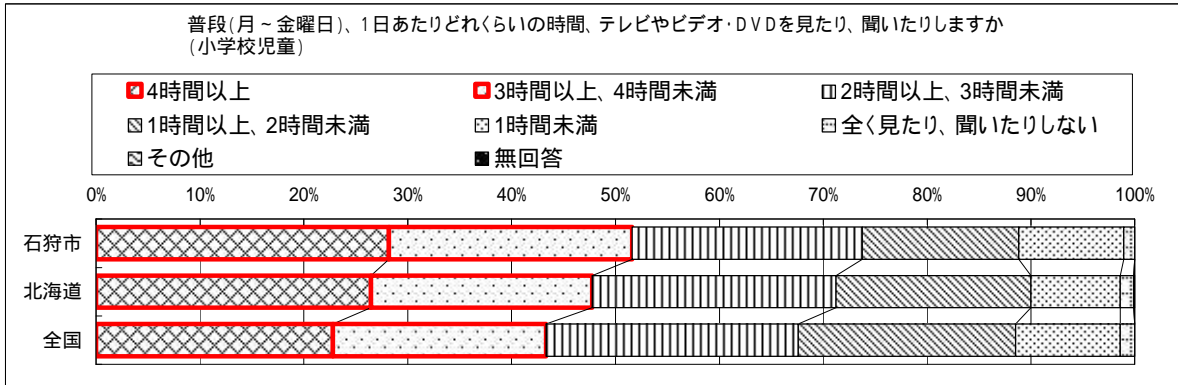
平日(月～金曜)における家庭での学習時間は、小中学生ともに全国より短く、「1時間未満(全くしないも含む)」と回答した割合は、小学生で 56.2% (全国比 14.5 ポイント高い)、中学生で 41.0% (全国比 7.4 ポイント高い) 休日では小学生で 54.4% (全国比 9.0 ポイント高い)、中学生で 40.8% (全国比 5.2 ポイント高い) とともに全国を上回っています。

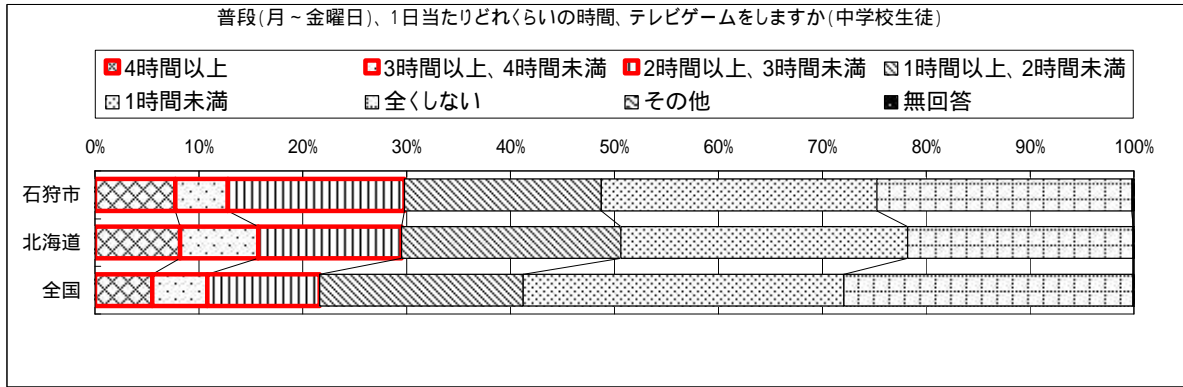
2時間以上家庭学習をする中学生の割合は平日では 28.3% (全国比 7.4 ポイント低い)、休日は 31.9% (全国比 6.3 ポイント低い) で、ともに全国より低くなっています。



テレビやDVDなどを見る時間や、テレビゲームをする時間は長め。

平日にテレビ、ビデオ、DVDを見ている時間については、3時間以上見ている割合が小学生で51.6%（全国比8.3ポイント高い）、中学生では、41.7%（全国比5.2ポイント高い）で、ともに全国を上回っています。テレビゲームでは、2時間以上している割合は、小学生では29.9%（全国比6.9ポイント高い）中学生で29.7%（全国比8.1ポイント高い）となっており、ともに全国と比べて高い傾向にあります。

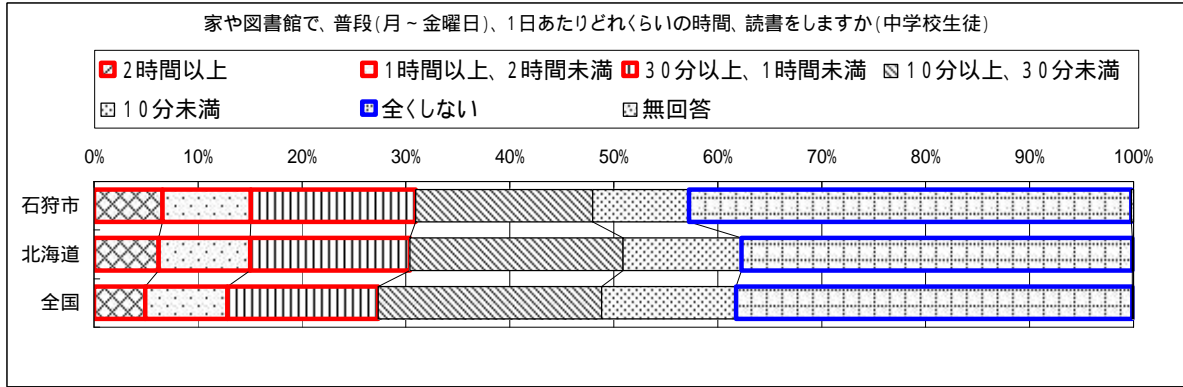
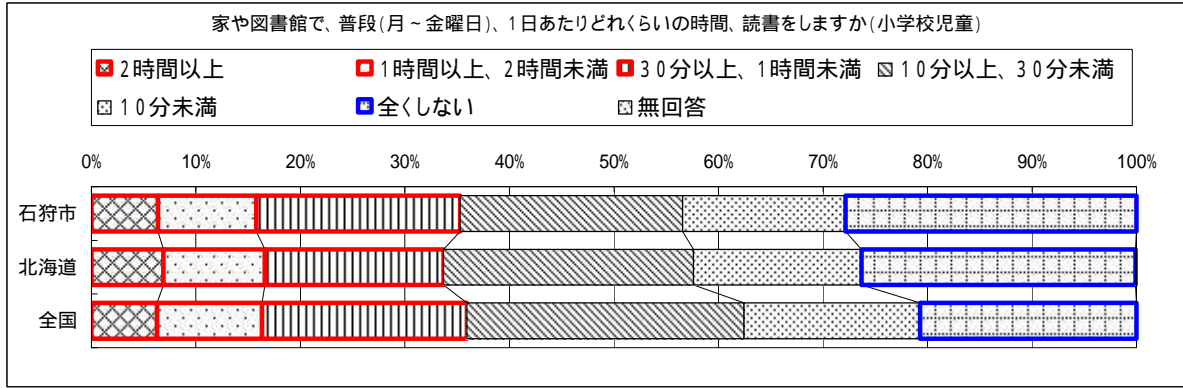




家庭で30分以上読書する小学生は、全国と同程度で、中学生は、やや多い。

1日に30分以上読書する小学生は、35.3% (全国比 0.6 ポイント低い) で全国とほぼ同程度、中学生は31.0%で全国を3.7ポイント上回っています。

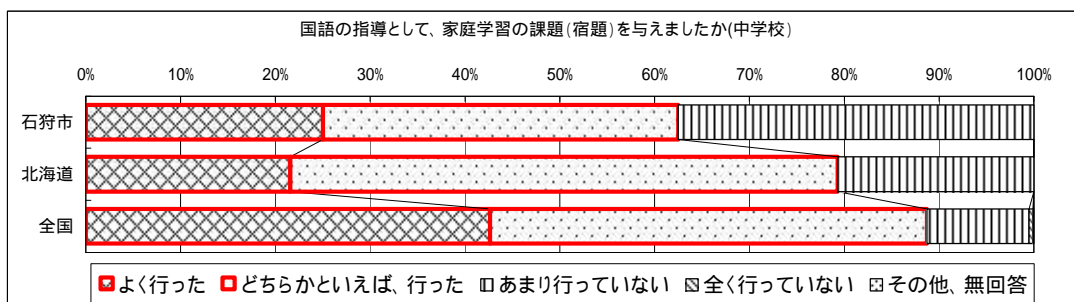
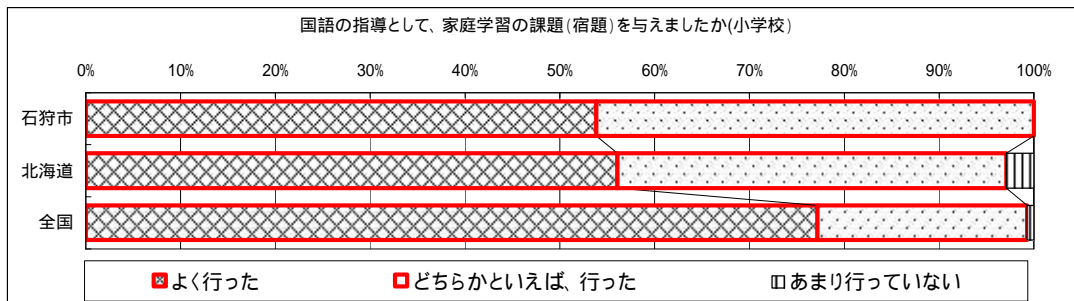
一方、全く読まない小学生は27.8%で全国より7.1ポイント高く、中学生は42.6%で全国より4.5ポイント高くなっています。



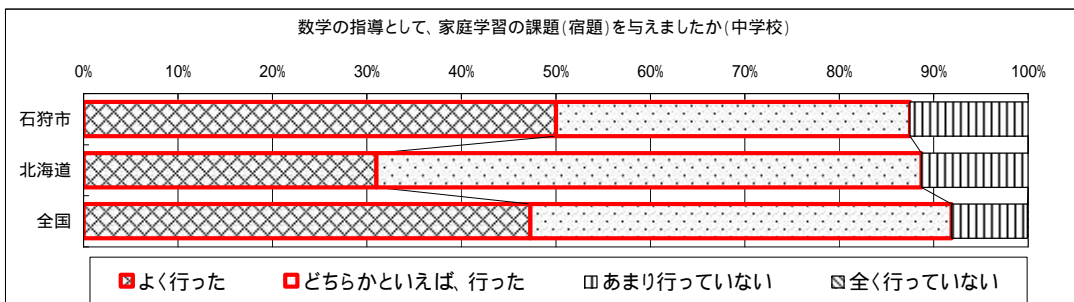
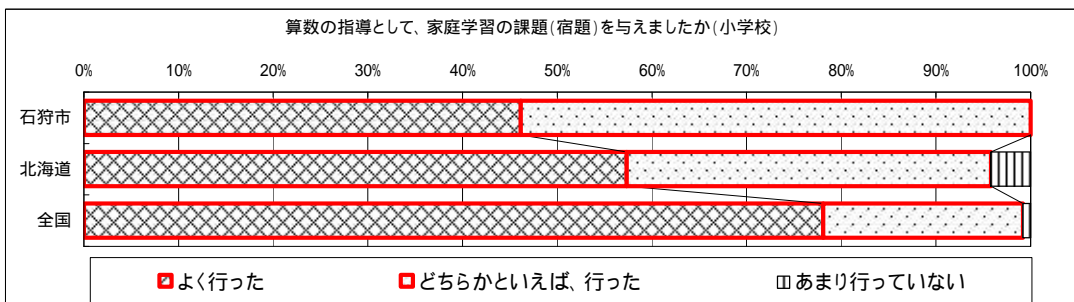
学習状況調査「学校質問紙結果」より

【家庭学習・家庭との連携】

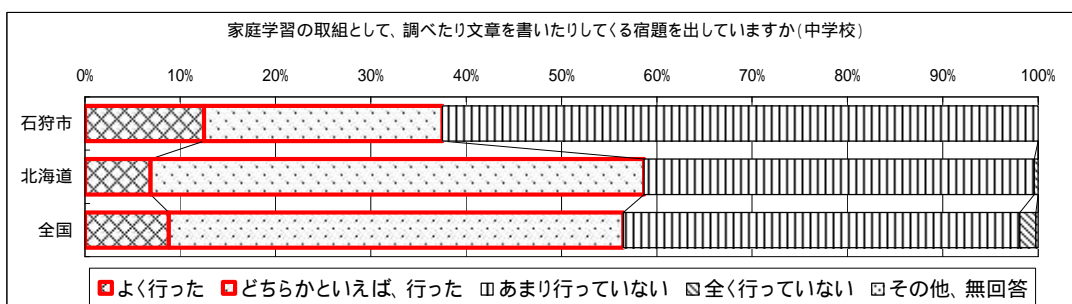
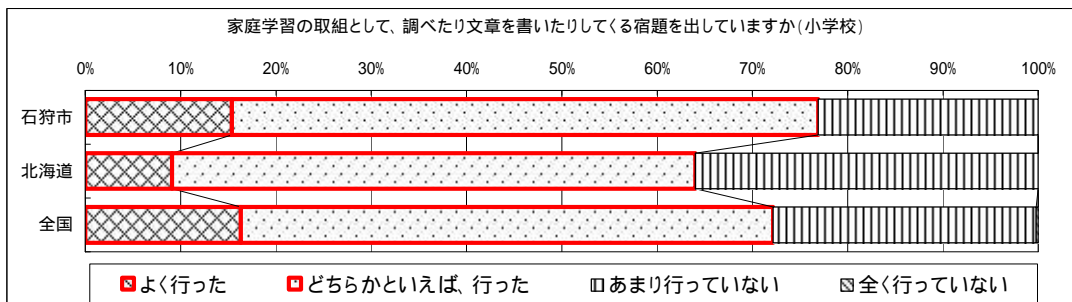
国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、小学校においては 100% で全国とほぼ同程度、中学校においては 62.5% で全国と比べて 26.3 ポイントと極めて低い。



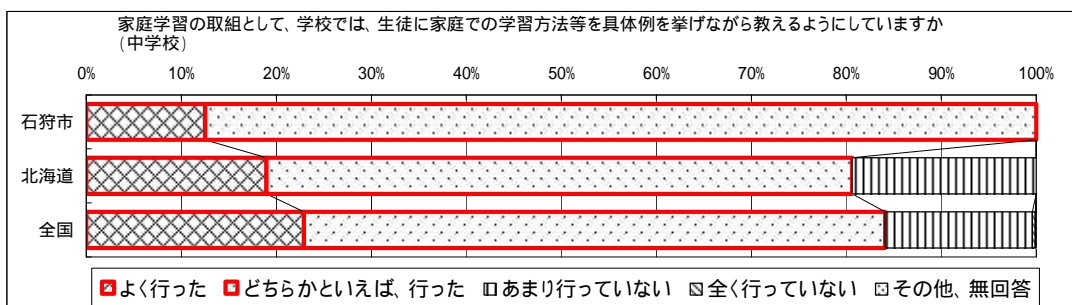
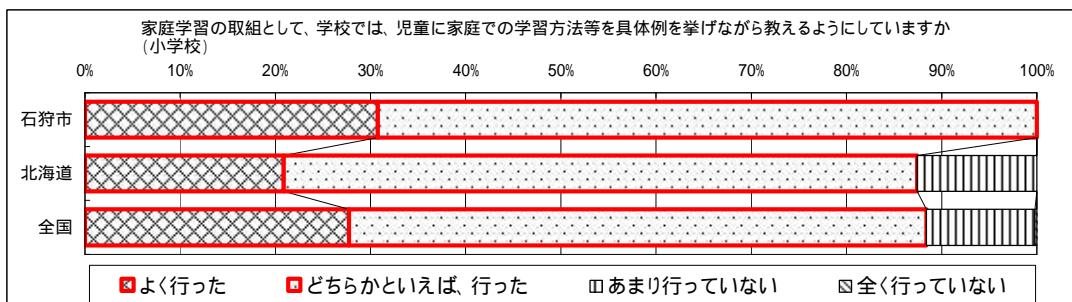
算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、小学校においては 100% で全国とほぼ同程度、中学校においては 87.5% で全国と比べて 4.4 ポイント低い。



家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出している学校の割合は、小学校においては76.9%で全国と比べて4.7ポイント高く、中学校においては37.5%で全国と比べて19.0ポイント低い。

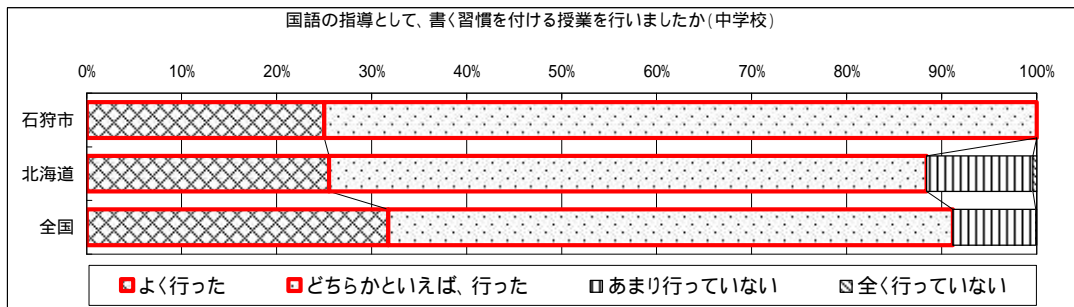
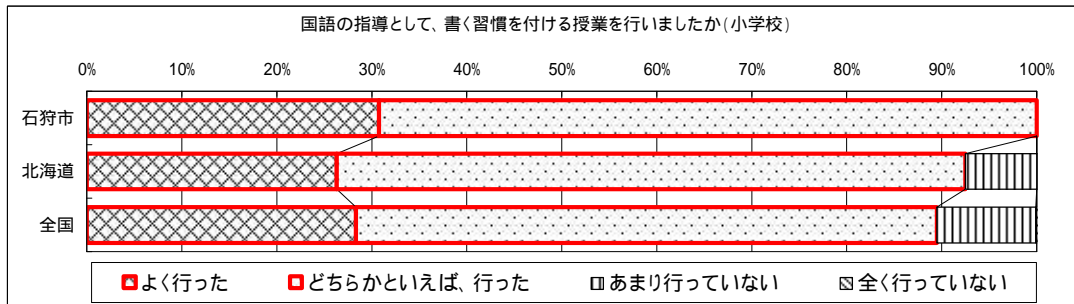


家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法の具体例を挙げながら教えるようにしている学校の割合は、小学校・中学校ともに100%で、全国と比べて小学校では11.7ポイント、中学校では15.9ポイント高い。

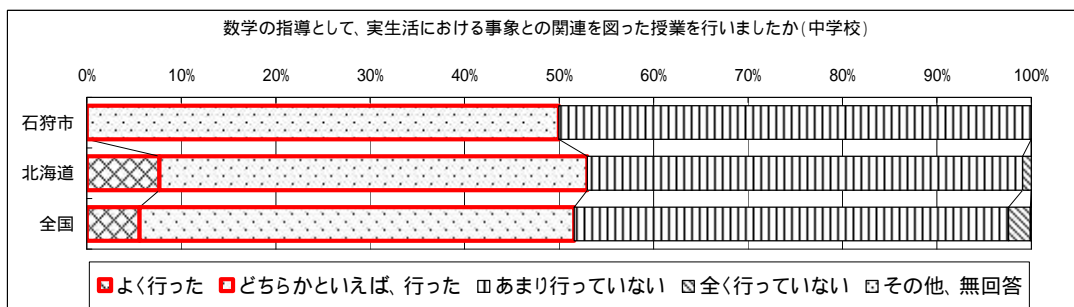
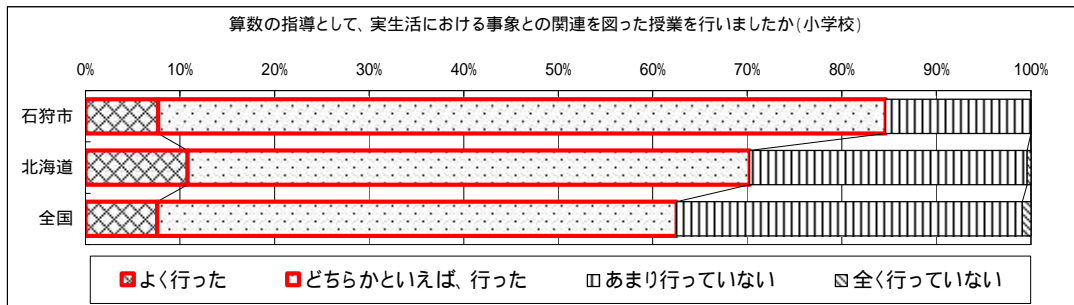


【指導方法】

国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行っている学校の割合は、小学校・中学校ともに100%で、全国と比べて小学校では10.6ポイント、中学校ではポイント8.9高い。

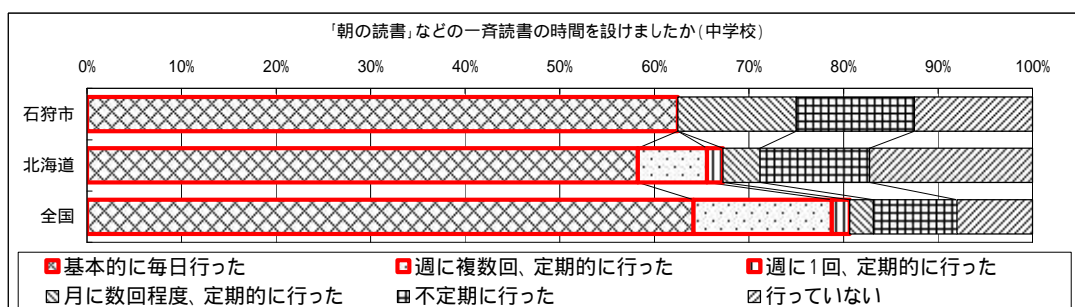
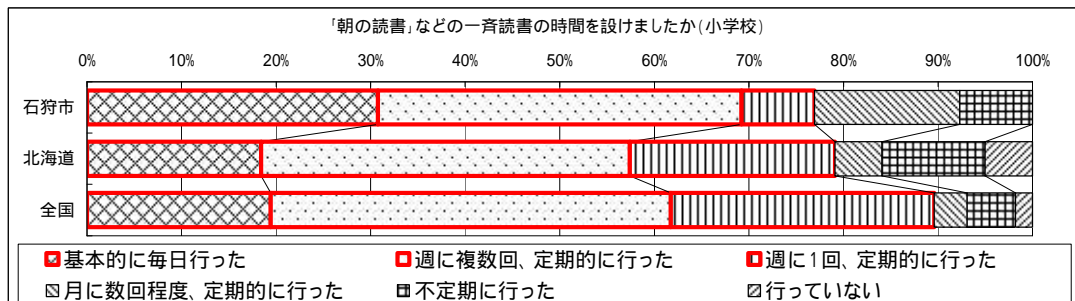


算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小学校においては84.6%で全国に比べて22.0ポイント高く、中学校においては50.0%で全国に比べて1.6ポイント低い。

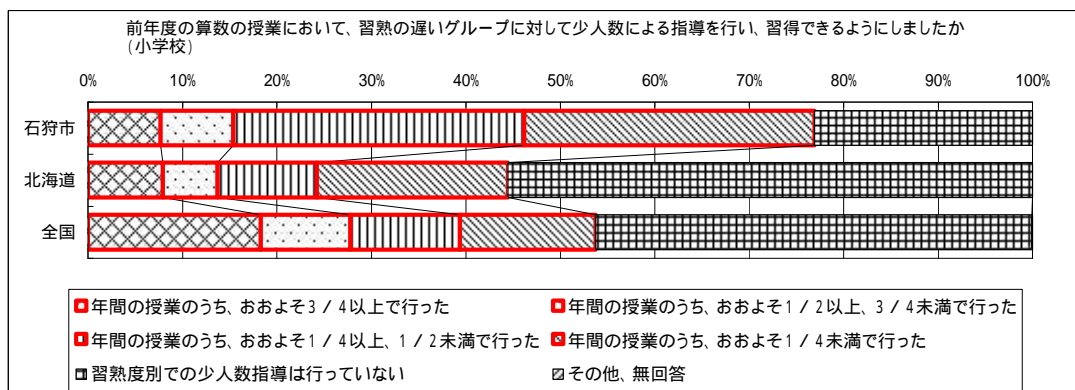


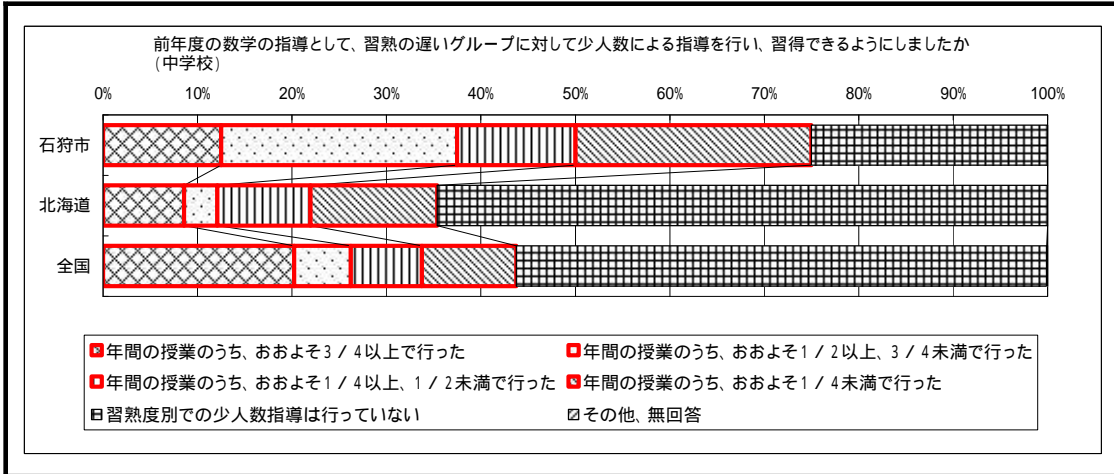
【学力向上に向けた取組等】

週に1回以上定期的に「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校においては76.9%で全国に比べて12.5ポイント低く、中学校においては62.5%で全国と比べて18.1ポイント低い。



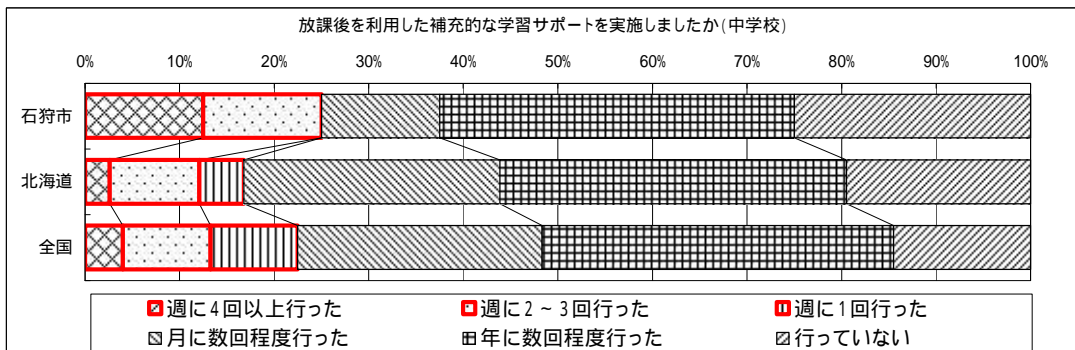
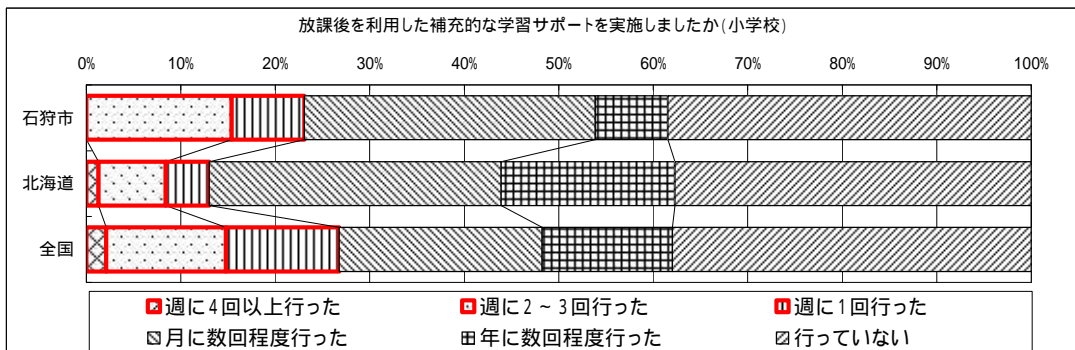
前年度の算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした学校の割合は、小学校においては76.9%で全国と比べて23.1ポイント高く、中学校においては75.0%で全国と比べて31.3ポイント高い。



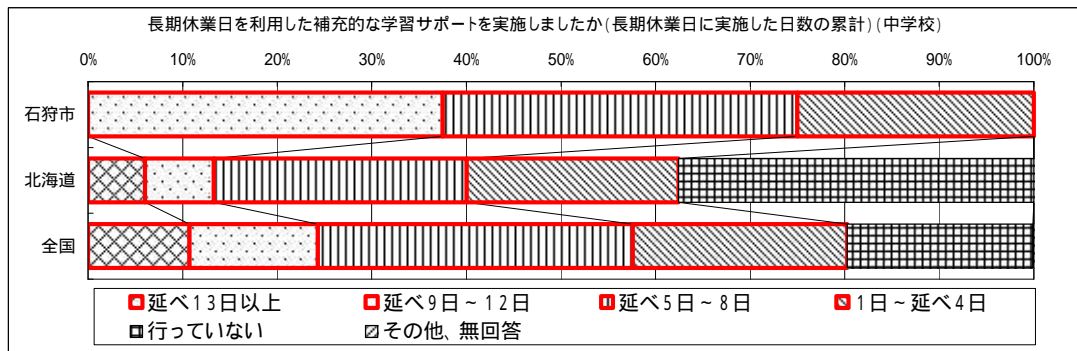
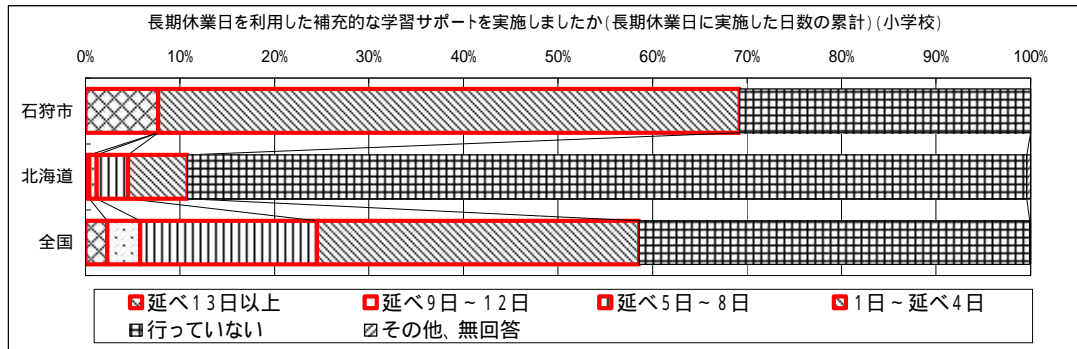


【学習時間等】

週に1回以上、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校においては23.1%で全国と比べて3.7ポイント低く、中学校においては25%で全国に比べて2.5ポイント高い。

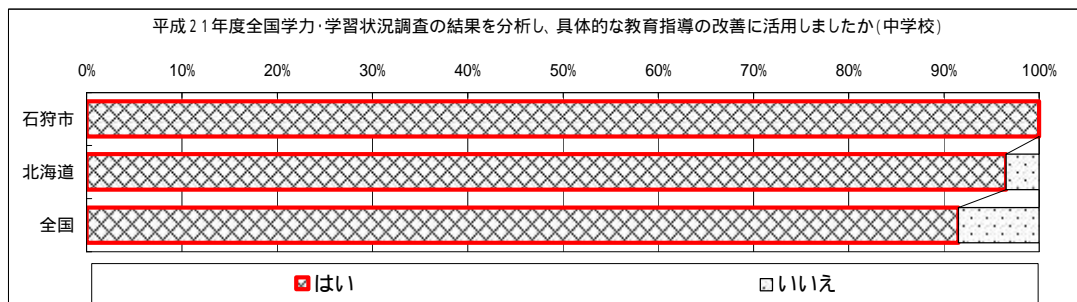
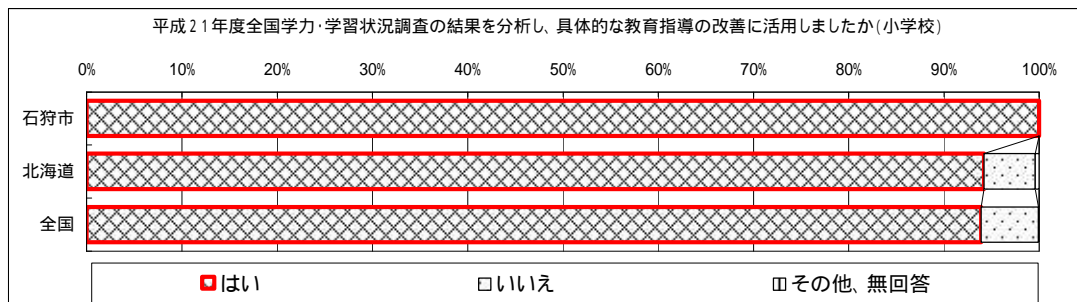


長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校においては69.2%で全国と比べて10.6ポイント高く、中学校においては100%で全国と比べて19.7ポイント高い。



【全国学力・学習状況調査の活用】

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は、小・中学校ともに100%で、全国と比べて小学校で6.1ポイント、中学校で8.5ポイント高い。



全国学力・学習状況調査問題を、授業の中で活用した学校の割合は、小学校においては 61.5%
 で全国とほぼ同様、中学校においては 62.5%で全国に比べて 8.3 ポイント高い。

